

研究会レポート

リージョナルステート研究会 (社)日本技術士会北海道支部/
北海道技術士センター

全国大会に向けて

今年度は、(社)日本技術士会全国大会が札幌で行われますので、その体制を整えたところです。当研究会の副会長、各分科会の座長、幹事は、若い技術士の皆さんで進めることにしました。企画は、今までの役員会（会長、副会長、各分科会の座長、幹事）を中心に、講師の森田麻美子さん、関係者を入れて拡大役員会を設立しました。

全国大会、第一分科会のテーマは、市民との協働～観光、教育、環境、自律～です。市民との協働は、我々技術士が社会貢献を考える場合、エンドユーザー（生活者、消費者、利用者）が求めているものに適確にフィットしていることが必要であり、それ無しには社会貢献があり得ないと考えるからで、そのフィットする過程こそ市民との協働と考えました。

各分科会の研究内容、活動内容は、皆さんの話しを引き出すための事例として取り扱い、適宜織り込んでいくつもりです。

市民との協働は、当研究会で言う「実行」にあたります。全国大会を絶好の機会ととらえていきたいと考えています。当研究会の目的をもう一度確認します。リージョナルステート（Regional State）とは、地方国家又は地方政府という意味です。ある地域が自律するため研究・提案・実行することが当研究会の目標です。具体的な設立趣旨は、北海道の自律と活性化を進めるために、我々技術士が「何か貢献できないか」、身の回りのやれるところから「実行してみよう」、具体的な行動の中から「新しい技術士像を確立する」ことです。

市町村合併、道州制の動きが活発になってきました。何か役に立ちたいものです。

(文責：研究会会長 市村 一志)

自然科学教育分科会

1. はじめに

自然科学教育分科会は、総合学習などの教育サポートを通じて「北海道を元気づけるため、元気な子供を育てよう」を合い言葉に、平成12年に発足した分科会です。

当分科会の活動目標は、自然豊かな北海道に住んでいることに加えて、子ども等が自然の驚異や大切さを知り、そしてそれをうまく利用していく心を育てていこうと、次の二つを掲げております。

- (1) 北海道の最大の魅力である自然・環境の大切さを体験しながら理解してもらい、それを地域の重要な財産として受け継ぐとともに、上手に活用していく心を育てる。
- (2) 自然科学、科学技術の面白さ、奥深さ、大切さを分かり易く教え、北海道の地域産業の活性化を支える技術者を目指す人材の芽を育てる。

2. 分科会活動内容

(1) 定例分科会

定例分科会は2ヵ月に1度のペースで開催し、教育サポートのメニューづくり、教育サポート実施報告とそれに対する意見交換を行っております。また、昨年度実施した教育関係者で行う「模擬授業」では、授業のすすめ方や、専門用語ではなく分かり易い言葉で説明する難しさを実感しております。

(2) 特別分科会（合宿）

会員の得手、不得手を持ち寄り、自ら自然の中で体験し勉強する会として特別分科会（合宿）を平成15年度から実施しております。15年度は「道民の森」にて川・森・鳥・水をテーマにしたワークショップ

行い、今年度は7月に「大滝セミナーハウス」で実施する予定です。

(3) 教育サポート回数

平成12年から始まり5年目になりますが、この間、平成12年度1件、13年度4件、14年度5件、15年度10件と、年度を重ねるほど教育サポート回数も増加傾向にあります。またその多くは札幌市内ですが、江別市や寿都町と活動範囲も拡大しつつあります。

3. 分科会会員、サポーター会員の増強

教育サポート回数の増加に伴い、試験合格祝賀会や総会の休憩時間に会員を募り、現在のメンバーは実際の教育サポートと分科会の企画運営に携わる会員29名と、教育サポートや地域活動を支える分科会のサポーター会員34名、計63名の賛同を得ています(5月末現在)。更に付け加えると、今年度は、学生を含む多くの第一次試験合格者(技術士補含む)が加わり、若い方々の活躍が期待されるところであります。

4. おわりに

「Study Nature Not Books」、これは、米国ウッズホール海洋研究所の玄関に飾られたアガシー博士の言葉ですが、これは何も研究者だけに当てた言葉ではないと思います。テレビやマウスをクリックするだけで情報が得られる世の中ではありますが、もう一度原点に戻り、自然と向き合い、自然が発する情報に五感を研ぎすませ学びなさいと。

今年度も教育関係機関から幾つか照会を受けております。テーマはダムに関する事、海についてと様々ですが、「本だけじゃ表しかわからないよ、本物(自然)を見たり触ったりして裏も知ってみようよ」を合い言葉に、教育サポートを通じて「技術士」としての社会貢献を一層すすめていきたいと思っております。

当分科会 HP の URL

<http://www.ipej-hokkaido.jp/kyouiku/index-kyouiku.htm>

(文責：分科会副幹事 板谷 利久)

観 光 分 科 会

観光分科会は現在22名が参加し、これまで勉強会を中心に議論を重ねてきました。観光は非常に間口が広く、様々な課題が噴出しましたが、最終的に、以下の4つのテーマを抽出しました。(詳しくは前号で紹介)

- 高速道路ネットワークの確立
- 観光ルートの創造
 - ・特色ある観光ルートの創造
 - ・ホスピタリティインフラとしての社会資本
- 空港観光情報提供システムの確立
- 中心市街地の活性化に資する道の駅の活用

その後、本年2月のいわゆる「景観緑三法」の閣議決定にみられるように社会資本整備における景観保全・改善など、観光ルート創造に向けては追い風が吹き始めています。

また、情報提供面でも、特に海外からの旅行者への対応の面で、4月末に札幌国際プラザが「ビジターズ・センター」を設置、また5月にはNPO北海道観光バージョンアップ協議会が韓国語・中国語コールセンターを設置するなど新しい動きも出てきています。

さらにこれまでの体験観光やエコツアーに加え、花観光やスローフードなど、観光目的の多様化やレンタカー利用の増加など旅行形態多様化現象も見られるようになりました。

このように観光は急速に変化し多様化しつつありますが、観光の基本要素である「移動する」「遊ぶ」「休む」機能をいかに、北海道の保有している資源の活用や、特性を踏まえた社会資本整備を通して高めていくかという視点が必要ではないかと考えております。

本年度の観光分科会の活動は、上記の4テーマについて、その実現をめざしていく予定です。そのため、新しい観光動向に関する勉強会を進めながら、現地調査・見学会やヒアリング調査など、より現地に即した活動を展開していく予定であります。また新規会員も随時募集しておりますので、気軽にご参加いただくようお願いいたします。

(文責：分科会座長 宮武 清志)

循環技術システム研究分科会

昨年度末までに本分科会の第一弾の成果品となる「有機質廃棄物の循環」にテーマを絞った提言書を完成させ、発行の運びとなる予定でしたが、最終取り纏めの段階で若干でこずっております。近々の完成を目指して作業を進めているところです。

日本技術士会の全国大会が9月に札幌で開催されますが、諸般の事情から毎年地域産業研究会と共催で実施していた宿泊見学会も、残念ながら本年度については見送られることが決まっております。実際に見るのと聞くのでは大違いであることを身を以て認識している技術士としては、これに代わる見学会の実施の必要性を感じていることと思います。

分科会の名称に“システム”と謳われているように、技術に特化した事柄についてのみを検討するのではなく、社会システムにまで突っ込んだ検討を

する趣旨でスタートしておりますので、今年度からは第一弾の提言書に引き続き、新たなテーマを選定し、詳細な検討を進めていこうと考えております。

また、ニセコ町との意見交換についても、継続的に実のある取り組みに行きたいと考えておりますし、提言書を携え地方都市を訪問することを切っ掛けに、新たなニーズを把握することも必要だと考えています。

ともあれ、ここ半年あまりは提言書を完成させなければならぬと云う強迫観念に取り憑かれ、活動内容が纏める作業に重点が移ってしまい、定例会も若干面白味に欠けたきらいがありましたので、新しいテーマを決める迄の情報交換や議論、また講師の招聘なども含めて発足当時の活気のある活動になることを期待しております。

(文責：分科会幹事 及川 聡)